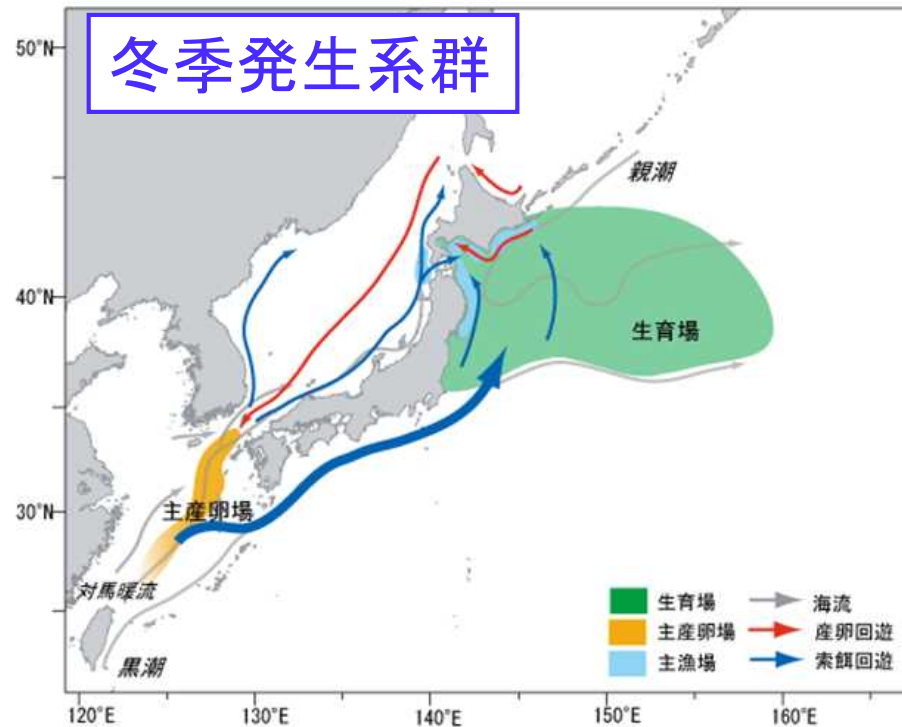


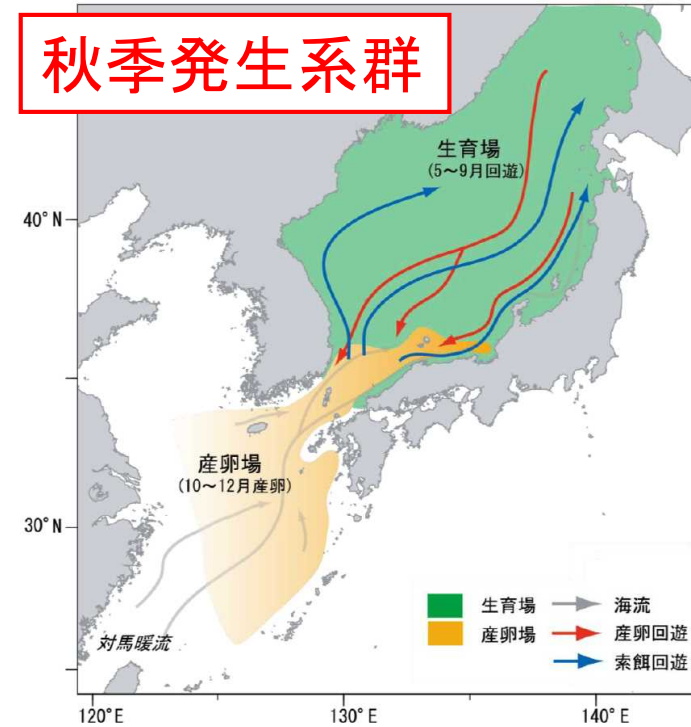


スルメイカ冬季発生系群・秋季発生系群  
平成30年度資源評価結果

# スルメイカ2系群の生物学的特性



- ・東シナ海で12月～3月に産卵
- ・太平洋を北上、日本海を南下
- ・主に太平洋で8月～12月、日本海で11～2月に漁獲



- ・日本海～東シナ海北部で10月～12月に産卵
- ・日本海を北上、南下
- ・主に日本海で5～10月に漁獲

- 寿命：約1年
- 成熟開始年齢：雄は約6～7カ月、雌は約7～8カ月以降
- 食性：甲殻類、小型魚類、いか類
- 捕食者：主に大型魚類、海産ほ乳類

# 資源評価の流れ

## 資源調査

冬季

- 7～10月中旬の小型いか釣り漁船の漁業情報
- 8～9月の調査船調査結果

これらの情報による資源量指標値から資源量を推定

秋季

- 6～7月の漁場一斉調査(いか釣り調査)

上記に基づく資源量指標値から各年の資源量を推定

## 2018漁期年資源量推定

再生産関係

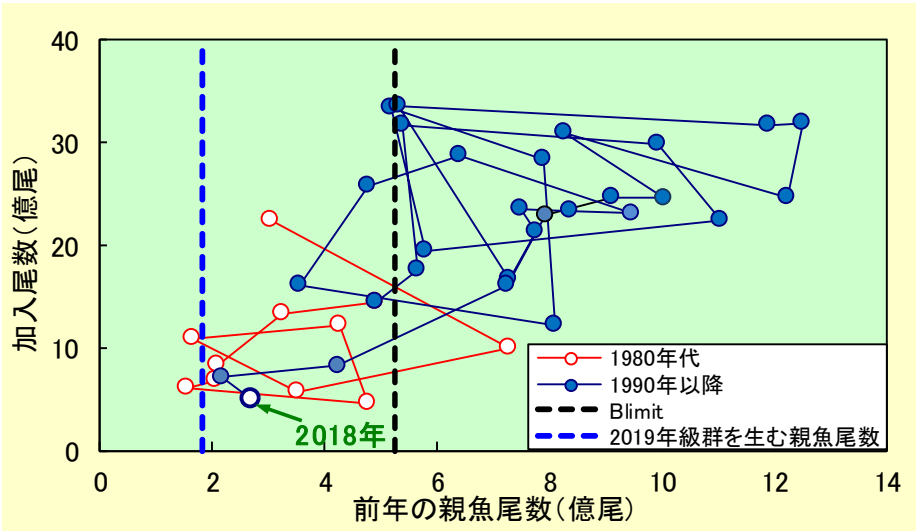
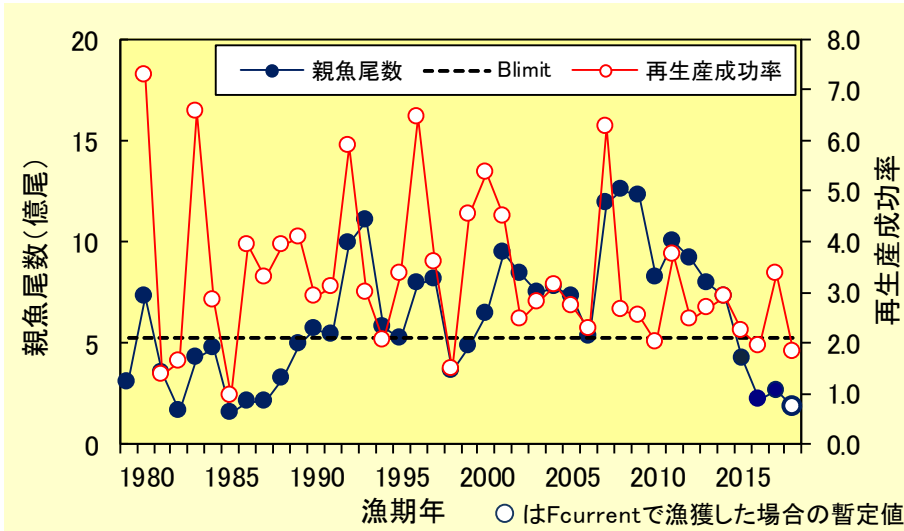
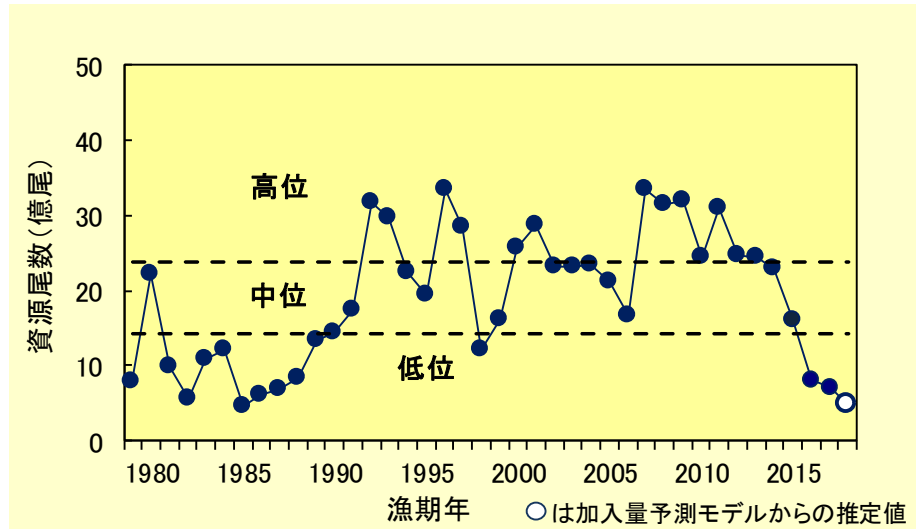
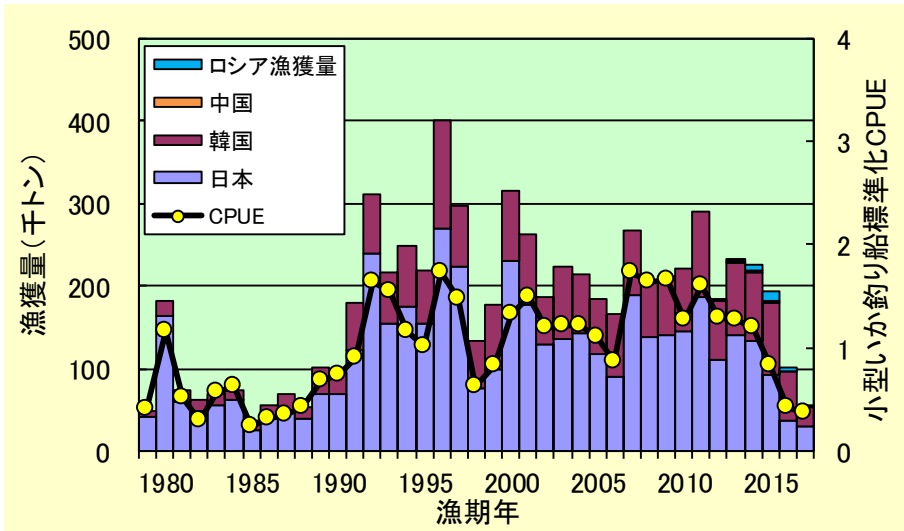
※資源量と親魚量  
の関係から推定

## 2019漁期年資源量予測

各漁獲シナリオの検討

## 2019年漁期ABCの算定

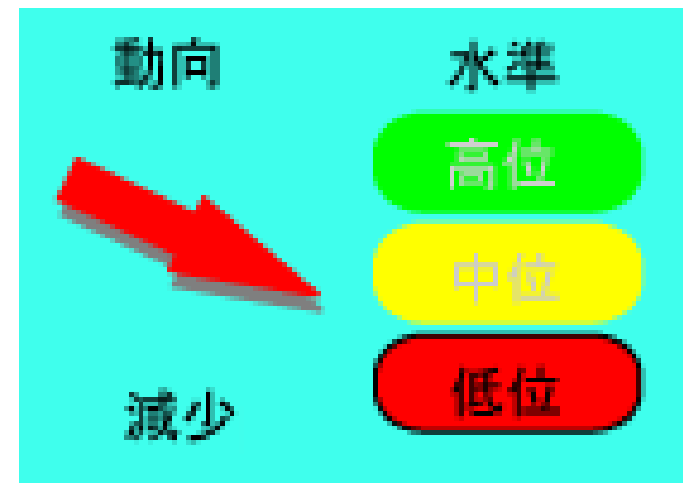
# 冬季発生系群



2018年 資源量: 4.9億尾・15.3万トン  
 親魚量: 1.8億尾・5.7万トン(2018年漁期終了時)  
 (Blimit=5.3億尾 以下)

# 資源評価のまとめ

- 資源状況  
2018年：資源量15.3万トン、親魚量5.7万トン
- 資源動向・資源水準  
水準は**低位** ( $B_{limit}$ を下回る)、動向は**減少**
- 親魚量を **$B_{limit}$ 以上の水準に回復させる**ことが目標
- 2002年以降の再生産成功率は低めになる年が多く、産まれてから漁獲対象となるまでに生き残る確率が低下していると考えられる。



# 2019年ABC表

資源量(2019)=152千トンを仮定、親魚量(2018)=57千トン、Blimit=164千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2019年漁期 ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)	2023年漁期後の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2023年漁期後に 2018年漁期後の 親魚量を維持	2023年漁期後に Blimitを維持
親魚量の 増大 (B/Blimit× Fmed) (Frec)	Target	11	7	0.11 (-72%)	382 (113~742)	97	79
	Limit	14	9	0.13 (-66%)	337 (101~656)	96	74
親魚量の増大 (5年でBlimit へ回復) (Frec5yr)	Target	14	9	0.14 (-65%)	326 (97~637)	96	72
	Limit	18	12	0.17 (-56%)	276 (82~532)	95	62
2019年		2019年漁期 算定漁獲量 (千トン)					
現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent≒ Fmed)	Target	30	19	0.31 (-20%)	139 (41~270)	80	25
	Limit	36	24	0.39 (±0%)	95 (28~184)	61	13